

令和6年10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和6年10月1日（火）午後1時00分～1時40分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ6社 8名

会見内容

1. 話題提供（4項目）

0 はじめに

- まずはじめに、9月21日からの石川県能登半島北部を襲った豪雨で甚大な被害が発生いたしました。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りしますとともに、行方不明とされている方がまだいらっしゃいますので、1日も早くご家族のもとに戻られますこと、そして、一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

1 政策参与の任命について

- はじめに、政策参与の任命についてです。
- この度、政策参与に、k-B i zセンター長の澄川誠治氏を任命することといたしました。政策参与は釧路市でも初めての役職であり、この任命は初めてとなります。
- これまで、「釧路市顧問」として、元釧路公立大学学長の小磯修二先生を任命させていただき、政策全般についてご指導をいただいているところであります。
- あわせまして、個別分野の取り組みに関しましては、「政策アドバイザー」として、釧路市出身の石井至氏をはじめ、6名の方を任命させていただき、その分野ごとに、具体的な事業展開も含めたアドバイスを随時いただいているところであります。
- 今、これからの釧路市の産業、経済をしっかりと発展させていくといえますか、予算というものをいろいろなことに対する効果について期待値の高いものにする、これを「投資」という言葉を使っていますが、このような行財政運営を行うことが必要ということの中で、澄川氏に、新たに「政策参与」として、市の投資的な政策づくり、予算について助言をいただくことを進めるものです。
- 澄川センター長は、k-B i z開設以来、地元中小企業の皆さんに寄り添った支援を行い、この5年間で、相談件数は1万件を超え、成果として雇用も100人以上、さらには、57件の創業が実績としてあります。こうした実績を市の政策面において、ご尽力いただければと考えているところであります。
- 政策参与には、10月3日（木曜日）付けで任命をさせていただき、来年度の予算編成過程からご参画いただきたいと考えております。
- 任命式を、10月3日（木曜日）午後4時30分から市役所市長応接室にて執り行う予定です。

2 スマートフォンに関する相談窓口について

- 二点目は、スマートフォンに関する相談窓口についてです。
- スマートフォンの使用に関する悩みなどに対応する相談窓口を10月15日（火曜日）より駅前のコワーキングスペース「くしろフィス」内に開設します。また、阿寒町・音別町両行政センターやコア3館など市内計7か所にて、巡回相談会を11月から順次実施します。開催日などについては、今後、広報くしろなどで周知します。
- 釧路市は令和3年度に『スマートフォンの中に市役所がある』を基本理念とした釧路市DX（デジタルトランスフォーメーション）推進方針を策定し、LINEを活用した情報

配信や公園内のバーベキューコーナーのオンライン予約などスマートフォンから利用できる様々な行政サービスを開始しており、今後も、さらに充実させていく予定です。

- これまで、市民の誰もがデジタル化による利便性を実感できるようにするため、過去2年にわたり「スマートフォン教室」を開催し、多くの市民にご参加いただきました。8割以上の参加者から、「良く分かった」または「分かった」とご意見をいただき、大変好評だったところです。その一方で、教室だけでは理解する時間が足りないといったご意見もいただいております。
- そこで、この度、市民がいつでも気軽にスマートフォンについて相談ができる環境を整えることとしました。スマホ相談員は、地域おこし協力隊として採用いたしました山口公浩氏が担います。スマホ相談員の着任挨拶を10月4日（金曜日）午後3時から市長応接室で行います。
- 利用にあたりましては、相談日時の事前予約も可能で、10月7日（月曜日）から受付を開始します。受付時間や予約方法などの詳細については「広報くしろ10月号」や釧路市ホームページにてご案内しています。
- スマートフォンに不慣れで使いこなせない方はもちろんのこと、窓口には相談対応のスマートフォンのご用意がございますので、スマートフォンをお持ちでない方も、この機会に相談窓口などをご利用いただき、デジタル化による利便性を実感するきっかけとさせていただきたいと考えています。

3 子ども読書デビュープロジェクトの開始について

- 三点目は、子ども読書デビュープロジェクトについてです。
- 大きな課題があり、釧路市の小中高生に読書アンケートを行いました。この中で近年、子どもたちに読書離れの傾向が見られます。平成30年度と令和4年度を比較しますと1か月間読書をしない子どもは小学生で平成30年度は10%でしたが令和4年度では15%に増えています。また、中学生においても3%ぐらい増えています。高校生の場合は読書をする子どもの割合が半分近くになっているということで、非常に辛い状況です。
- しかし読書が好きと回答した割合については、読書する子どもは減少傾向であるものの、6割から7割の子どもは読書が好きだと回答しています。そういった意味ではいろんな場面、特にご家庭などでの読書に親しむ環境づくりが大事だと考えているところです。
- こういったことも踏まえた中で、10月から1歳未満の子どもとその保護者を対象とした新しい事業「子ども読書デビュープロジェクト」がスタートします。
- この事業はイオン北海道株式会社様からいただいたくしろWAONの寄附金を活用して実施します。
- 事業内容としては6～7か月時の育児相談の際に釧路市中央図書館が策定した「赤ちゃんとお楽しむ絵本ガイド」に掲載された12種類の本の中からご希望の1冊を贈呈します。あとは絵本の読み聞かせ体験を行っていきます。
- 初回は10月15日（火曜日）、防災庁舎で開催する育児相談で行う予定です。その後、西部子育て支援拠点センターや阿寒町・音別町などで実施していきます。今後の予定については、釧路市のホームページや公式LINEでお知らせをしていきます。
- この事業を通じて、子育てにおいてまだ小さいお子さんの読書環境を作っていくきっかけになるとともに、絵本を通じて赤ちゃんとお母さんがゆったりと触れ合う時間のきっかけを作っていければと考えている次第です。

4 くしろ木づなフェスティバル2024について

- 四点目は、くしろ木づなフェスティバル2024についてです。
- くしろ木づなフェスティバルは、市民の皆様方に釧路の森林の役割や木材の活用につい

て知っていただくとともに、木材の利用促進を一層図ることを目的とし、釧路地域の林業・木材産業の事業者などで構成される「釧路 森林資源活用 円卓会議」が2019年（令和元年）以来第3回目となるフェスティバルを開催いたします。

- 日程は、10月26日（土曜日）・27日（日曜日）の2日間、場所は、釧路市観光国際交流センターにて開催されます。
- 「釧路 森林資源活用 円卓会議」では「くしろ木づなプロジェクト」として、森林施業の効率化や地域材の利用拡大、担い手の確保に向けた取り組みなど、川上から川下までの取り組みを一体となって行っています。
- 釧路で林業を行っている背景として、74%の森林資源が合併によってこのエリアにあります。あわせて釧路市内は消費地としての役割もあることから、川上から川下までの循環型という考え方で進めています。こういった取り組みの中で釧路市内の小中学校に地元のカラマツ製の机を導入するなどの取組を実施しています。
- これも仕組みが重要な話で、通常地元で調達すると費用が高めになり、なかなか活用ができないことから既存の売っている机を使うこととなります。そこで、7年間の事業ですべての机を換えることにして、地元の業界の方々に空いている時間で作業してもらうことで価格を抑え、既存のものと同じ金額ですべてをカラマツ製の机に換えていただいたことが大きなポイントになっています。
- 仕組みを変えることで様々なことができるということを実例として行ってきたものです。
- 今回、一番重要なのが平成22年から行っている北海道水産林務部の若手の方々との相互派遣交流が現在9代目となっており、こういった面々も参加しながら気運を高めていこうということです。
- フェスティバルの内容につきましては、関係機関や釧路地域の企業・団体によりブースが出展され、「木育マイスター道東支部による体験コーナー」においては、振って演奏するウッドシェーカーや原木カスタネットづくりの体験が行われるほか、「トンカチひろば」では自由な工作が楽しめる予定です。また、長野県のヴァイオリン職人である井筒 信一氏による「くしろの木（アカエゾマツ）を使って製作したヴァイオリンの展示」とそのヴァイオリンのライブ演奏や、屋外での高性能林業機械の実演など地域の林業・木材産業の魅力が詰まった2日間となっています。
- 是非、多くの方々に参加していただきたいと思います。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・ 政策参与について、小磯顧問のように審議会の座長のような関わり方になるのか、市の予算編成に直接関わるのか、どのような関わり方になりますか。

（市長）

- ・ 小磯先生につきましては、地域経済研究センターを立ち上げていただき、釧路公立大学の学長として地元を知った中で大きな政策などにお力をいただいております。今回の政策参与の澄川氏はk-Bizのセンター長として6年目を迎え、先ほど説明しました1万件の相談でおよそ1,000社を超える中小企業、個人事業、団体などが予算をかけないで売上を増やす取り組みを行ってきました。あわせて、k-HackやKCボードという事業展開をいただいております。澄川氏も小磯先生と同様にこの地域を知っていただいておりますので、ここを我々の予算と組み合わせていくイメージです。それは産業分野になるのか教育になるのか子育てになるのか、こういったものを進めていくための政策参与ということになります。我々は早くから新年度の予算作成に取り組んでおり、それは8月に国の概算要求のふたが閉まっていきますので、そういった情報を取っていきながら進めて

いくことが一つあり、今この段階で新年度にどのようなことに取り組んでいくのかという予算編成の枠組み作りに政策参与のアドバイスや経験を取り込んでいければと考えています。

(質問)

- ・今までのk-Bizの知見を市の予算編成で助言いただくというイメージですか。

(市長)

- ・私が就任した時は、釧路市に約1,600の事業がありました。私が全部ヒアリングし、今は1,400くらいです。そのうち900くらいがルールに基づいた事業になります。ですから釧路市が考えながら行っているものは500くらいです。昔から行っているものも重要ですが、市の意思を進めている事業に澄川氏の知恵を組み入れながらどう進めていくかというやり方を行いながら、予算の期待値を考えていくため、早急に進めているものです。

(質問)

- ・予算づくりに助言を民間の視点からもらう構図ですか。

(市長)

- ・そうです。建付けがしっかりしているとすばらしいものになってきます。やはり建付けが重要と思っています。私も予算の時には枠組みづくりを重視しています。今までの予算は最終決定の段階で市長が関与する形でした。もちろん現場も一生懸命考えてくるわけですが、建付けの中にどれだけの視点を盛り込めるか。市役所の中にもたくさんの知見がありますが、そういう意味で、予算の段階でご意見をいただければいいものが出来上がってくるとしています。

(質問)

- ・来年度の予算に対するアドバイスをもらうということですか。

(市長)

- ・その通りです。

(質問)

- ・ちなみに有償、無償のどちらですか。

(市長)

- ・勤務した日数は有償になります。k-Bizがベースになりますので、そこに支障がない様に考えています。

(質問)

- ・今回は澄川氏が任命されていますが、今後増やしていくことになりますか。

(市長)

- ・澄川氏は地元を知っているということが重要と思っています。政策は一般論で進めていくことがありますけれども、一般論は正しいときもありますが、現場に入るとずれが生じることもたくさんあると思います。ですから、地域の状況を踏まえた中で政策を作っていくことが重要と思っています。我々も国や北海道の大きな枠組みの中で考えていくものですが、そこに違った知見が入ってくることを期待しています。

次をどうするかはまだ考えていません。

(質問)

- ・任期はありますか。

(市長)

- ・定めておりません。

(質問)

- ・あらためて期待するところについて話を聞かせてください。

(市長)

- ・ k-Biz は地元目にかけていく仕組みですので、すばらしいものと思っています。けれどもそれを成しえていくのは人です。澄川センター長が釧路に来てくれたということは本当に感謝の気持ちでいっぱいです。その澄川氏はその知見とともにさまざまなことを展開してくれていますので、ぜひ釧路の中でその知恵を最大限生かしていくため政策参与に任命いたしますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(質問)

- ・ 伊東良孝氏が地方創生大臣に就任されましたが、市長の前の市長でありましたし、大臣就任にあたっての期待や要望などを聞かせていただきたい。

(市長)

- ・ ちょうど総裁から電話があった時に同じ会合に出ておりました、いち早く知ることになりましたが、大変うれしく思っているところです。あわせて沖縄北方の担当を兼ねて地方創生ということで、北方領土は根室だけではなく我々の地域も一体となって取り組んでいますので、ここを前に進めていくことと、地方創生は伊東先生も石破総裁も思いがある中でのタイミングであり、非常に重く受け止めていらっしやいますので、私どもも非常に期待しているところです。まさにこの地域にぴったりと合った大臣に就任いただきましたので、ますますお力をいただけるかとうれしく思っている次第です。

(質問)

- ・ 具体的な期待はありますか。

(市長)

- ・ いろいろな取組を我々も行っていきたいと思っています。国の大きな方針の中で脱炭素やGX(グリーントランスフォーメーション)があり、いろいろ取り組んでいるところです。それ以外にも先ほどの澄川氏を入れながらどんな事業を行っていくかということもありますので、こういった施策にも力強い後押しをいただけると考えておりました、そういった意味で大変力強く感じているところです。

(質問)

- ・ アイスホッケーについて、9月3日の共同記者会見で釧路アイスホッケー推進協議会の話がありましたが、今後の見通しとプロチーム誘致を目指す市の役割を教えてください。

(市長)

- ・ 市としても地域の中にアジアリーグに参戦するチームを作りたいというのは同じ思ひです。そういった意味でアイスホッケー連盟としっかり連携していこうと考えており、その中に経済界も入りながら考えていこうというところに立ち位置を置いています。その中でアイスホッケー連盟が釧路アイスホッケー推進協議会を作りました。今は、10月8日に発起人会を開催するというのを伺っているところです。今後どのような活動をしていくのかという詳細はそひ中で決まっていこうと思っています。連盟、市、経済界で何とか釧路にプロチームを持ちたいという思ひですので、協議会の取組ひ方ひに期待しながら待っている状況です。

(質問)

- ・ 市として何か支援するというひことですか。

(市長)

- ・ もちろんです。協議会の中にも市は参加させていただいていますので、市が支援していくというひことは当然です。

(質問)

- ・ プロチーム以外にも青少年育成などひありますがそちらについての重要性はひかがひですか。

(市長)

- ・もちろん子どもたちの育成をどういった形で進めていくのかも連盟との共通の思いです。プロチームを持つことは重要で大きな目標を掲げていきながら、他もしっかり進めていこうと思っています。ここは同じ立ち位置で考えています。

(質問)

- ・10月8日に発起人会ということで、どういう方が来て、何が決まるのですか。

(市長)

- ・メンバーは釧路市、アイスホッケー連盟、スポーツ振興財団、三ツ輪商会、マルサ笹谷商店、釧路トヨタ自動車、釧路厚生社、Daishinなど。また、市民グループの代表としてオールドタイマー、ビアリーグ。こういった関係者が参加していく中で、今後決まっていくことについてはこれからになります。

(スポーツ課長)

- ・初回は顔合わせの意味が強く、中身の詳細については今後の会議の中で決まっていくということになります。

(市長)

- ・すべてのメンバーについては、出していく形ですので聞いていただければと思います。

(質問)

- ・その日に協議会が立ち上がるということですか。

(スポーツ課長)

- ・確定した内容をどこまで発表できるのかもその中で検討されると聞いています。その日を待っていただければと思います。

(市長)

- ・10月8日午後6時ということが決まっています。

(スポーツ課長)

- ・場所は防災庁舎の会議室Aになります。しかし、発起人は非公開と聞いております。

(市長)

- ・どういった発表の仕方になるのですか。

(スポーツ課長)

- ・その会議の中でどこまで発表できるかが決まりましたら、なるべく早い内に皆様にお知らせいたします。

(質問)

- ・市長4期目として今日が最後の定例記者懇談会ですが、この4年間の公約の達成状況を教えてください。

(市長)

- ・4期目は100%です。

(質問)

- ・達成状況は100%ということで、市長の自己評価としてはどのように考えていますか。

(市長)

- ・自己評価というよりも周りがどのように感じているかを優先してきました。ですから発信力がないと言われ非常に切ない思いをしていますけれども、今回初めて政策発表会の時にすべてではありませんがいろいろとまとめまして、役員の方から「結構やっていますね」と言われました。私は何を行うにしても市民の方がどう実感してくれているかを重視しながら行ってきました。そのような状況の中で、財政はまともになりました。貯金もそうですし、不良債務もあと2年で終わります。しかし、財政の健全化を進めながらも、「10戦3勝でいい」つまり「7回負けてもいいからチャレンジしていこう」というやり

方で進めてきました。例えば国際バルク戦略港湾の選定もありますし、観光立国ショーケースなどチャレンジしながら行ってきました。そういった意味の成果もあると思っています。あわせて日本製紙跡地の問題について、すべてけりが付いたわけではありませんが、製材工場が3年後の稼働を目指して動き出します。地元の中では、先ほどのk-Bizは北海道の中では唯一の取組で、地元の経済を何とかしようとして行ってきました。ですから、人口減少ではありますが、域内総生産はコロナの時期は除き若干プラスになり、税収もプラスになりました。まさに今までも地域資源を活用し、プラス成長を目指すという目標で進めてきました。その目標は飛躍的なものではありませんが、私なりに進めて来れたと思っています。何とかこれをさらに飛躍させたいというのが今の思いです。